

身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用)

総括表

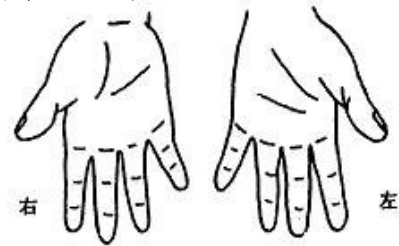
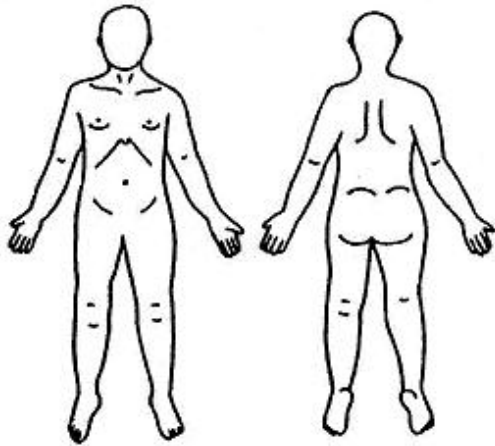
氏 名	明治 大正 昭和 平成	年	月	日生 (歳)	男・女
住 所					
① 障害名（部位を明記）					
②	原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他（ ）			
②	疾病・外傷発生年月日	年	月	日	場 所
④ 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）					
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日					
⑤ 総合所見					
[将来再認定 要 ・ 不要] [再認定の時期 年 月]					
⑥ その他参考となる合併症状					
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 年 月 日 病院又は診療所の名称 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名 印					
身体障害者福祉法第 15 条第 3 項の意見 [障害程度等級についても参考意見を記入] 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する (級相当) ・該当しない					
注 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別様式)を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分について、お問い合わせする場合があります。					

肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○でかこみ、下記空欄に追加所見記入。）

1. 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
2. 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
3. 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
4. 排尿・排便機能障害：なし・あり
5. 形態異常：なし・あり

参 考 図 示



右		左
	上 肢 長cm	
	下 肢 長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握 力kg	

計測法 上 肢 長：肩峰 → 橈骨茎状突起
下 肢 長：上前腸骨棘 → (脛骨) 内果
上腕周径：最大周径
前腕周径：最大周径
大腿周径：膝蓋骨上縁上 10 cmの周径
(小児等の場合は別記)
下腿周径：最大周径

×変形 切離断 感覚障害 運動障害

(注)関係ない部分は記入不要

動作・活動(補装具等使用しない状態)

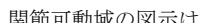
ひとりでうまくできる場合には…○ ひとりでできてもううまくできない場合は…△ ひとりでは全くできない場合には…×					
4 の場合 5 秒以内にできる…………○ 10 秒 " ……………△ 10 秒ではできない ……………×			12 と 13 の場合 30 秒以内にできる…………○ 1 分 " ……………△ 1 分ではできない…………×		
1 つまむ（新聞紙が引き抜けない程度）	右		12 かぶりシャツを着て脱ぐ		
	左		13 ワイシャツのボタンをとめる		
2 握る（丸めた週刊誌が引き抜けない程度）	右		14 ズボンの着脱(どのような姿勢でもよい)		
	左		15 靴下をはく(どのような姿勢でもよい)		
3 タオルを絞る（水をきれる程度）	両手		16 すわる(正座、横座り、あぐら、脚なげ出し(このような姿勢を持続する))		
4 とじひもを結ぶ	両手		17 椅子に腰掛ける		
5 はしで食事をする	右		18 寝返りする		
	左		19 歩 く	屋内	
6 スプーンで食事をする	右			屋外	
	左		20 片足で立つ	右	
7 顔を洗う（顔に手のひらをつける）	右			左	
	左		21 立ち上がる		
8 コップで水を飲む			22 階段をのぼる		
9 ブラッシで歯を磨く			23 階段をおりる		
10 排便の処理をする(臀のところに手をやる)	右		24 深くおじぎをする		
	左		25 公共の乗り物を利用する		
11 背中を洗う			26 歩行能力	m	

関節可動域（ROM）と筋力テスト（MMT）（この表は必要な部分を記入すること。）

筋力テスト（ ）		関節可動域	筋力テスト（ ）		関節可動域	筋力テスト（ ）	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		（ ）前屈	後屈（ ） 頸（ ） 左屈		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	右屈（ ）	
（ ）前屈		（ ）前屈	後屈（ ） 体幹（ ） 左屈		（ ）前屈	右屈（ ）	
右 180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		（ ）屈曲	伸展（ ） （ ）伸展		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	左 屈曲（ ）	
（ ）外転		（ ）外転	内転（ ） 肩（ ）内転		（ ）外転	外転（ ）	
（ ）外旋		（ ）外旋	内旋（ ） （ ）内旋		（ ）外旋	外旋（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 肘（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）回外		（ ）回外	回内（ ） 前腕（ ）回内		（ ）回外	回外（ ）	
（ ）掌屈		（ ）掌屈	背屈（ ） 手（ ）背屈		（ ）掌屈	掌屈（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 中手指節（MP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 中手指節（MP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 中手指節（MP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 中手指節（MP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 中手指節（MP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 近位指節（PIP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 近位指節（PIP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 近位指節（PIP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 近位指節（PIP）（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		（ ）屈曲	伸展（ ） （ ）伸展		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	屈曲（ ）	
（ ）外転		（ ）外転	内転（ ） 股（ ）内転		（ ）外転	外転（ ）	
（ ）外旋		（ ）外旋	内旋（ ） （ ）内旋		（ ）外旋	外旋（ ）	
（ ）屈曲		（ ）屈曲	伸展（ ） 膝（ ）伸展		（ ）屈曲	屈曲（ ）	
（ ）底屈		（ ）底屈	背屈（ ） 足（ ）背屈		（ ）底屈	底屈（ ）	

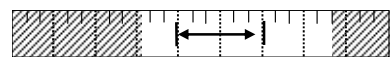
備考

注

- 1 関節可動域は、他動的な可動域を原則とする。
- 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
- 3 関節可動域の図示は、のように両端に太線をひき、その間に矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線（〰）を引く。
- 4 筋力については、表（ ）内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失または著減（筋力0、1、2該当）

- △印は、筋力半減（筋力3該当）
○印は、筋力正常またはやや減（筋力4、5該当）
- 5 (PIP)の項母指は（IP）関節を指す。
 - 6 DIP その他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
 - 7 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

（×）伸展  屈曲（△）